

ボランティア活動のご紹介
(限界集落問題に対する取組み)

2017年9月19日 社会福祉法人 善光会
理事 最高執行責任者 宮本隆史

運営する施設の概要

2007年4月、東京都大田区に日本最大級の複合福祉施設を設立。



▲西六郷



▲大森南



▲羽田



大森南



細田

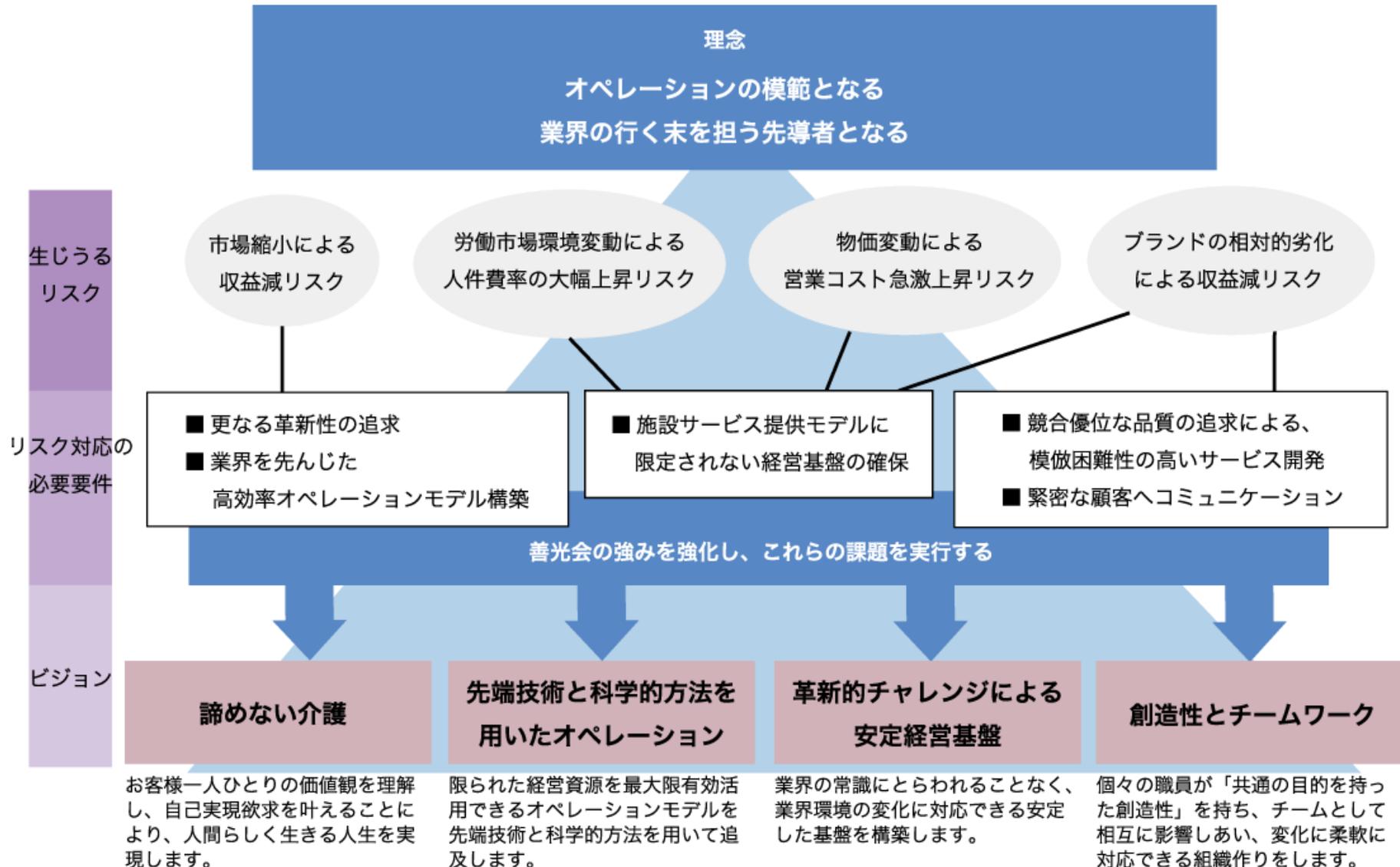
名称	サンタフェ ガーデン ヒルズ	
開設日	2007年4月1日	
所在地	東京都大田区東糀谷	
用途	特別養護老人ホーム	180床
	障害者支援施設	40床
	介護老人保健施設	100床
	通所(3事業)	65名

名称	フラクタル ビレッジ	
開設日	2010年6月1日(西六郷) 2010年7月1日(羽田) 2011年5月1日(大森南)	
所在地	東京都大田区西六郷 東京都大田区羽田 東京都大田区大森南	
用途	グループホーム 36床 (認知症対応型共同生活介護)	

名称	バタフライヒル	
開設日	2012年5月1日(大森南) 2013年5月1日(細田)	
所在地	東京都大田区大森南 東京都葛飾区細田	
用途	特別養護老人ホーム	90床
	特別養護老人ホーム	92床

善光会の目指すもの「理念・ビジョン」

善光会は、「オペレーションの模範となる」「業界の行く末を担う先導者となる」の2つに理念のもと、4つのビジョンを掲げて事業を展開しています。



限界集落とは

限界集落とは、過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者となり、冠婚葬祭や医療福祉サービスなどの社会生活の維持が困難で、共同体として生きてゆくための「限界」に達したとされる集落のことで、平成22年11月時点で全国で約10,000集落存在している。

集落の状態	定義
高齡者が少ない ↑ 存続集落	<ul style="list-style-type: none">55歳未満人口50%以上跡継ぎが確保されており、共同体の機能を次世代に受け継いで行ける状態
----- 準限界集落	<ul style="list-style-type: none">55歳以上人口50%以上現在は共同体の機能を維持しているが、将来的に維持が難しい状態
↓ 高齡者が多い or 人口ゼロ 限界集落	<ul style="list-style-type: none">65歳以上人口50%以上高齡化が進み、共同体の機能維持が限界に達している状態 <small>(医療・福祉等の行政サービス、冠婚葬祭など)</small>
	→ 全集落数の15.5%
消滅集落	<ul style="list-style-type: none">かつて住民が存在していたが、既にゼロ人となった状態

ボランティアの普及活動

善光会では、ボランティアを通して社会の問題に目を向け、今後持続可能性が疑われる介護財政、ひいては国家財政の負担軽減に社会全体として取り組みたいと考えている。

高齢化地域でのボランティア活動

高齢化地域では、家族関係・近所付き合いの希薄化等による高齢者の孤独死といった問題を内包している。また、自治体の財務基盤悪化や労働人口の減少により地方財政は逼迫し、住民への自治体サービスが十分に提供できていない。そしてそれら地域を支援する国家財政も予算における公債比率が年々高まり苦しい財政状況となっている。善光会ではボランティアを通してこのような社会の問題に目を向け、地方・国家財政の負担軽減に社会全体として取り組むためボランティアの普及活動を行っている。

住民とのコミュニケーション



地域住民と共同で畑仕事



障子張り等の細かなお手伝い



限界集落問題に対する取組み

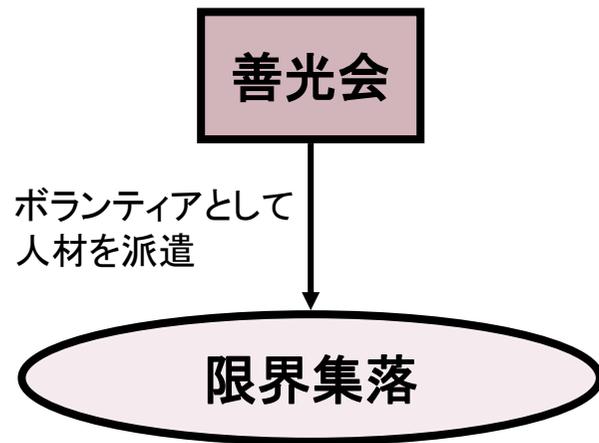
限界集落問題に対する善光会の取組みは、限界集落でボランティア活動を行い、その活動への参加を他法人に対して積極的に呼びかけることである。この取組みによりボランティアムーブメントを起こし、国家財政を圧迫することなく限界集落問題の解決を図りたいと考える。

善光会が思い描くボランティアムーブメント

現在

企業数

1法人



集落数

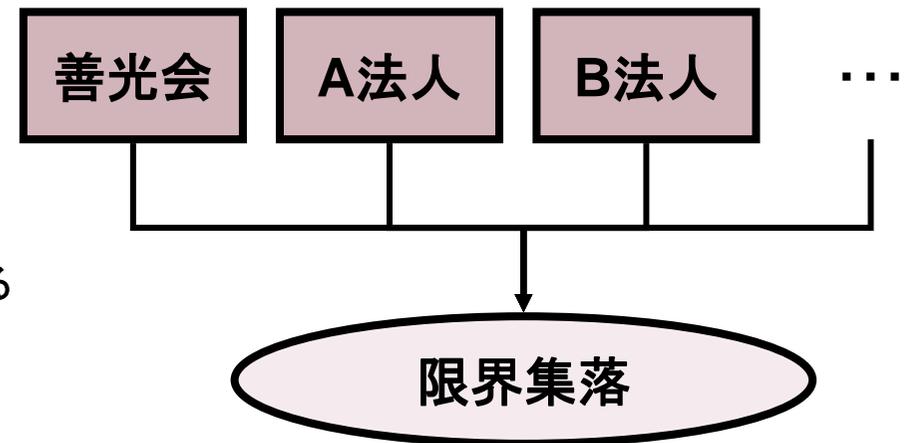
3集落前後

期間

2~3日間／年

将来

【例】18,000法人(全ての社会福祉法人)



900集落前後

200~300日間／年

他法人に対しても、ボランティア参加を積極的に呼びかける

→ 例えば、全ての社会福祉法人がボランティア活動を開始した場合、単純計算で900箇所の限界集落のケアをすることができる

ボランティアムーブメント

善光会がボランティアムーブメントを起こし、限界集落へのボランティア活動が広まることで財政負担が軽減され、ひいては限界集落の発生を抑制することに繋がる。

- 予算縮小の影響により、十分な地方振興策を打つことは難しい
- 若年層の更なる都市部への流出を招く

地場産業復活への
投資活発化

限界集落の発生を
抑制

- 不十分な自治体サービス
- 孤独死の発生

地方自治体の
予算縮小**防止**

ボランティア活動による
高齢者の**ケア**

地方自治体の
負担**軽減**

- 国から交付される地方交付税や国庫支出金が減少

国家財政の**圧迫軽減**

- 限界集落対策として種々の施策を実施
- 施策によるコストの増加

- 自治体コストの増大が、国家財政を圧迫
- 借金が財源の半分を占めており、財政危機が叫ばれている

原因

結果

ボランティア研修の意義

ボランティア研修の意義は、介護業界全体に対して限界集落へのボランティア活動を広めることと、社会的問題に立ち向かう善光会の設立背景や考え方、その取り組みを職員に深く理解してもらい、各現場での日々のサービスをより良くしてもらうことの2つである。

介護業界全体に対する意義

限界集落に対するボランティア活動を継続・拡大する

- 善光会がボランティア活動を継続することにより、他の団体や組織に善光会の想い(本気度)を理解してもらうこと
- 善光会の想いに共感し、限界集落に対してボランティア活動する団体や組織を増やすこと

善光会の職員に対する意義

善光会の考え方をより深く理解する

- 限界集落など、日本社会の現状を知ることで、介護福祉サービスの重要性を理解すること
- 介護福祉業界の課題を解決すべく生まれた善光会の考え方や取り組みの一貫性を理解すること
- 善光会の考えを理解した上で、日々のサービスをより良くしようと努力すること

茂木町での活動実績 ①

ボランティア研修を開始した2010年度は28件の活動先にてボランティアを実施する。7回目となる昨年の活動先は56件であった。当初は、町外、それも“わざわざ東京から来た若者“に対して警戒心を持たれたせいか受入れ希望者を募っても希望者はほとんどなく、社協から支援先の高齢者宅へ受入れをお願いするような状況であった。

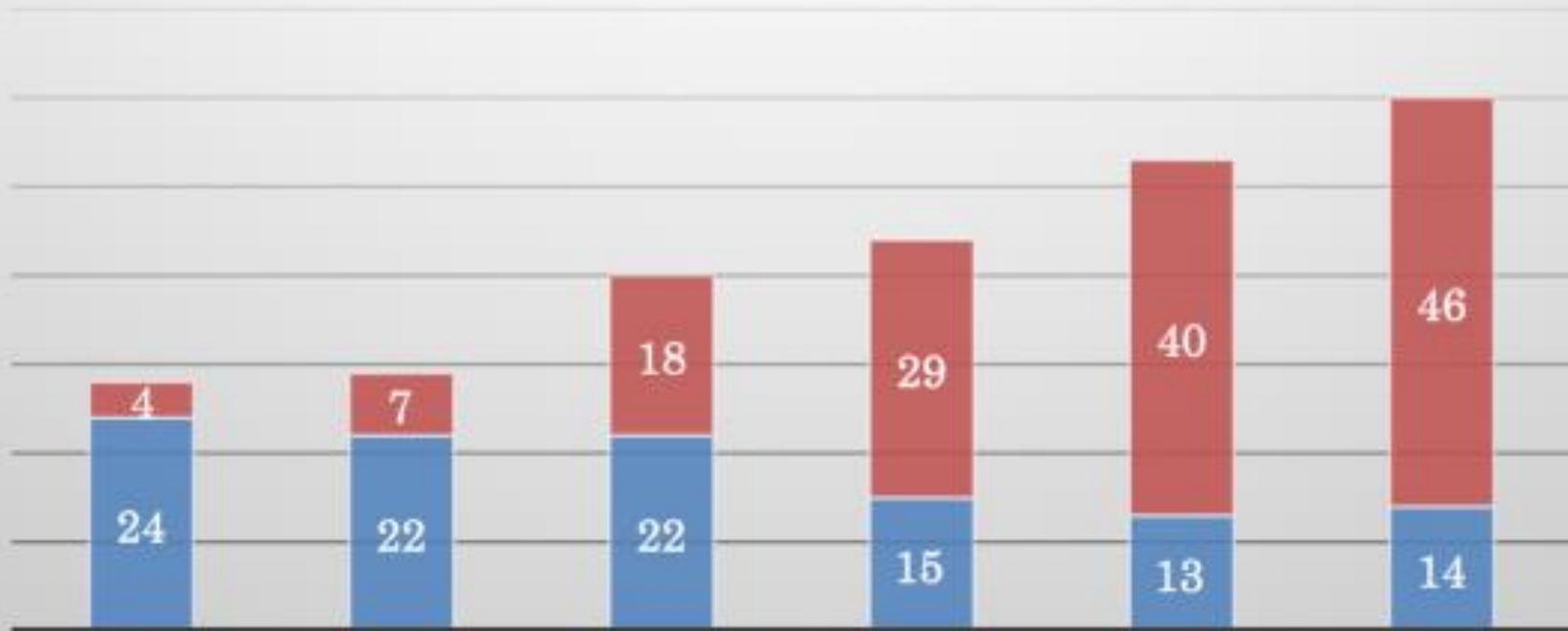
茂木町での活動実績

年度	ボランティア活動日数	活動件数			ボランティアの延べ人数
		合計	屋外の活動	屋内の活動	
2010	4	28	24	4	92
2011	6	29	22	7	105
2012	6	40	22	18	66
2013	5	44	15	29	98
2014	5	53	13	40	139
2015	9	60	14	46	173

茂木町での活動実績 ②

ボランティア活動開始から2年間は、屋外での活動がほとんど、つまり家の中に入れてもらえない状況であったが、ボランティア活動3年目より、少しずつ活動への信頼や社協の仲介及び職員の対応が評価されてきたこともあり、屋内での活動が多くなってきた。善光会ユニフォームを見ると、善光会が今年も来てくれたと喜んで頂ける方も増えた。

善光会ボランティア活動件数



平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度

■ 家の中の作業件数 ■ 家の外の作業件数

